

参加人数：73名

所要時間：48分(説明21分・質疑27分)

質問件数：6名・14件

Q1. 今回の調査報告書を踏まえて、今後の取り組みや過去の反省点について、今後のネットワンを舵取りしていく竹下新社長からコメントしてほしい。

A1. 私は今年度の4月より、管理本部長として再発防止策をリードしております。今回の調査報告書を踏まえて、3ディフェンスラインの役割や責任をより明確化して、会社全体の強固な基盤を構築していきたいと考えております。一方で、反省点としては、調査報告書(p143-144)にも記載がありますが、私が事業本部側を率いていた際に、より慎重な姿勢で対応することがより望ましかったとされる指摘があり、大きな反省があります。

Q2. 調査報告書の中で、「不正の動機や正当化事由にもなりうる」とされている個人インセンティブ報酬制度の廃止の検討に言及されているが、どのように考えているか。

A2. 業績重視から、より行動を重視する形へ人事制度を変えていこうと考えております。その中で、個人インセンティブ報酬制度は速やかに是正したいと考えております。

Q3. 個人インセンティブ報酬制度を廃止した場合、報酬面での魅力が低下するリスクはあるのか。

A3. 営業のモチベーションですが、段階を踏みながらですが、会社の成長を最大のモチベーションとする制度に変えていくべきだと考えています。個人インセンティブを廃止して、組織・チームとして動いたものを評価するようにして、営業だけでなく技術者、また、その他の部門にも展開していきたいと考えております。

Q4. 同様に、個人インセンティブ報酬制度を廃止した場合、業績成長に悪影響を及ぼす可能性はないのか。

A4. 事業をより加速するために、チームとして評価する形に切り替えようとする意図です。現在加速させている統合サービス事業では、案件の大型化や複雑化によって、既にチームで動くことが多くなっており、チームでの評価が適切だと考えています。チームインセンティブへの移行においても、業績よりも戦略に基づいた行動を評価する比率を多くする形を考えています。なお、チームで行動することで、相互の牽制もしやすいと考えています。

Q5. チーム内で不正がないかどうかチェックするシステムは既に導入されているのか。例えば架空出荷など。

A5. 既に進めている現在の再発防止策でも、購買の強化に取り組んでおります。それをさらに強化して、営業とのコミュニケーションに留まらない拒否権の付与や、ベンダーや役務パートナーの監査・牽制まで集中的に強化しようと考えております。

Q6. 利益率改善について中長期的なビジョンを掲げているが、ターゲットの数字や達成スケジュールに変わりはないか。

A6. 吉野及び荒井の頃から目指しているそれらの数字は、今後も全く変えずに、事業計画含めて引き継いでいく考えです。

Q7. 今回の発表によって受注が遅れたり、見送られたりということはないか。

A7. 今はないと考えております。

Q8. 新経営陣への体制変更やガバナンス改革、また、顧客への調査報告書の説明に時間が割かれることによって、短期的に営業効率が落ちるような影響はないか。

A8. 各営業部においてお客様への説明を実施しているのは事実です。しかし、今期は影響がないと捉えておりますし、次の第1四半期も見込み案件の状況を見る限り、今のところ問題ないと認識しています。

Q9. 竹下新社長は、ネットワンのコアバリューは何だと考えているか。それを守るために、どう努力をしていくのか。

A9. 最先端の技術を駆使して、お客様の課題をスピーディに解決するという価値は絶対に変えたくない部分です。そのために、お客様とより活発にコミュニケーションをはかり、会話の中で、今どういったことをやろうとされているのか、どういったところで悩まれているのかを汲み取って、それぞれに合わせて素早く提案していく力をさらに強化したいと思っています。当然、お客様だけでなく株主の皆様、パートナーの皆様とも対話を深めてまいります。より士気の高い会社にしていきたいと思っています。

Q10. ここ数年、大きな成長を実現してきている中、今回の改革に伴って、一時的に業績以外を優先したり、人員やコストが増えたりすることはあるのか。

A10. 事業成長とガバナンス強化を両立させていこうと考えています。ガバナンスに関しては外部有識者とパートナーシップを組みながら進めていきますし、事業成長については今までどおり社内連携を強化しながら戦略を遂行していきたいと考えています。

Q11. 辞任する吉野・荒井の2名は、今後マネジメントに関与しないポジションになるのか。

A11. 今月の取締役会で来期の体制が確定します。吉野は近い将来会社を離れる意向を持っています。荒井は新経営陣をサポートする形を今は考えています。正確には、取締役会で議論した上で確定させたいと考えております。

Q12. 現在の社内取締役にシスコシステムズ出身者が多い背景を教えてください。吉野会長のみの意図で、気に入った人間を引き入れたという経緯があるのか。

A12. 吉野の推薦があったのは事実ですが、荒井が合意した人物のみとしており、牽制は効いていません。

Q13. 今後の役員は外部出身者が多くなるのか、それとも内部昇格者が中心となり、社内でモチベーションが向上できる形にするのか。

A13. 直ぐに回答したいところですが、これから詰めていくところですので、形ができましたらお知らせいたします。

Q14. 今後、監査役設置会社から監査等委員会設置会社に変更することを考えているか。また、社外取締役を取締役会の過半数にすることは考えているか。

A14. まずは実効性の高いガバナンス体制の構築が最優先であり、監査等委員会設置会社への移行は、今現在では考えておりません。社外取締役を過半数にという点は、今後検討していこうと考えております。